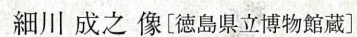


徳島県板野郡
藍住町勝瑞



南北朝時代、足利尊氏の命によって阿波に入った細川氏は、当初秋月（現在の阿波市土成町秋月付近）に守護所を構えますが、その後、勝瑞に守護所を移します。守護所の勝瑞への移転時期はいろいろな説がありますが、現在のところ15世紀前葉と考えられています。阿波細川家は、管領である細川本宗家の有力な庶流として幕府の政治にも関与するなど、畿内を中心に活躍しました。しかし、細川本宗家の家督争いによる内紛が勃発し、細川一族は衰退に向かうことになります。

細川

四① 和氏 — 五 清氏 — ⑤ 正氏

六② 賴春 — 七③ 賴之

④ 賴有

詮春 — ⑥ 義之 — ⑦ 滿久 — ⑧ 持常 — ⑨ 成之 — ⑩ 政之

教祐

⑪ 義春 — ⑫ 之持 — ⑬ 持隆 — ⑭ 真之

八 賴元 — 九 滿元 — 十 持元

十五 澄元 — 十七 晴元 — 昭元

十一 持之 — 十二 勝元 — 十三 政元 — 十四 澄之

持賢 — 政国 — 政賢 — 澄賢

尹賢 — 十八 氏綱

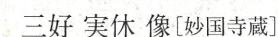
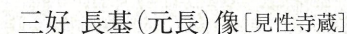
十六 高国

滿国 — 持春 — 教春 — 政春

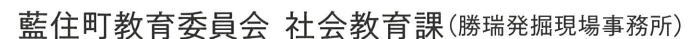


之長 — 長秀 — 元長

- 長慶
 - 義興
 - 義繼
- 実休
 - 長治
 - (存保)
- 冬康
(安宅)
- 一存
(十河)
 - 三好義繼
 - 存保



【参考文献】若松和三郎『中世阿波細川氏考』原田印刷出版 2000



〒771-1273 徳島県板野郡藍住町勝瑞字東勝地61-1 電話(088)641-3466

展示室開館時間 8:30~17:15(土・日・祝日は休館) <http://syugomati-syouzui.sakuraweb.com>

その中で頭角を現してくるのが三好氏です。三好氏は、畿内で活躍する細川氏を特に軍事面で助け、やがて主家の管領細川氏を滅ぼして、戦国大名として自立し、畿内で最も有力な大名に成長します。長慶の時には最大で阿波・讃岐・淡路・摂津・河内・和泉・山城・大和・丹波・播磨にまでその勢力は及びました。

長慶が畿内で活躍する頃、阿波三好家の当主である実休は、天文22年(1553)に守護持隆を自害に追い込み、実質的に阿波の実権を握るようになります。永禄3年(1560)には長慶の命で河内高屋城に移り、河内南部や和泉方面も勢力下に収めます。さらに、永禄4年3月には御相伴衆となりその存在がますます大きくなりますが、永禄5年3月、和泉久米田の合戦で

戦死しました。

実休の跡を継いだ長治は、細川真之を擁立した反三好勢力に追い詰められ、天正5年(1577)に長原(板野郡松茂町)の地で自害、さらにその跡を継いだ存保は天正10年(1582)の長宗我部氏の勝瑞侵攻を受け讃岐へ退きました。このことにより、勝瑞では三好氏の時代が終わり、同時に細川氏の守護所として、また三好氏の戦国城下町として発展した町も終わりを告げる事となりました。



三好 長輝(之長)像[見性寺蔵]



三好 長基(元長)像[見性寺蔵]

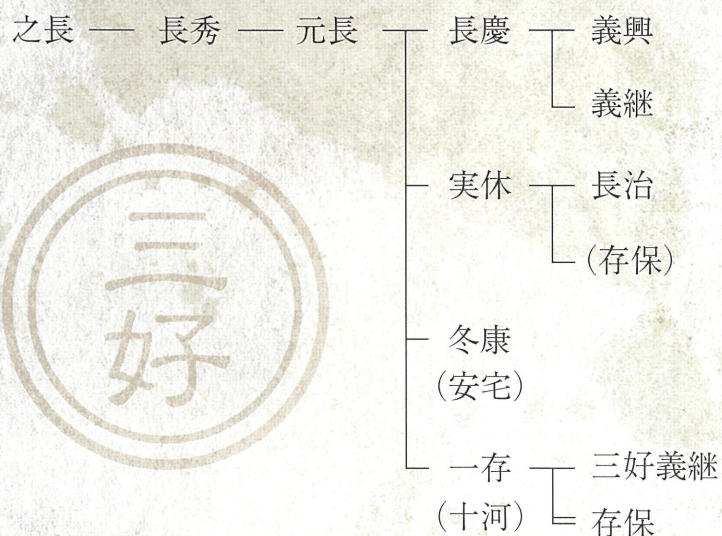


三好 実休 像[妙国寺蔵]



茶碗

◆三好氏略系図



【参考文献】 若松和三郎『中世阿波細川氏考』 原田印刷出版 2000

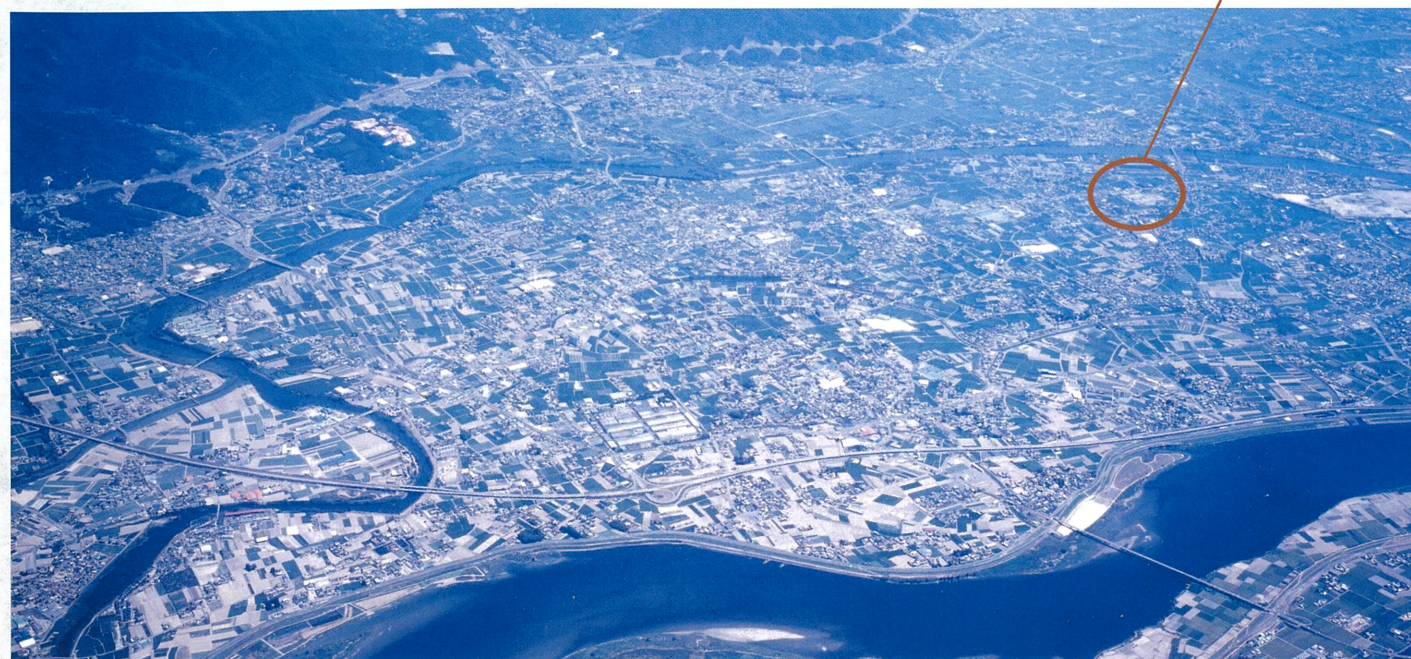
藍住町教育委員会 社会教育課(勝瑞発掘現場事務所)

〒771-1273 徳島県板野郡藍住町勝瑞字東勝地61-1 電話 (088) 641-3466

展示室開館時間 8:30~17:15(土・日・祝日は休館) <http://syugomati-syouzui.sakuraweb.com>

国史跡「勝瑞城館跡」

しょうずいじょうかんあと

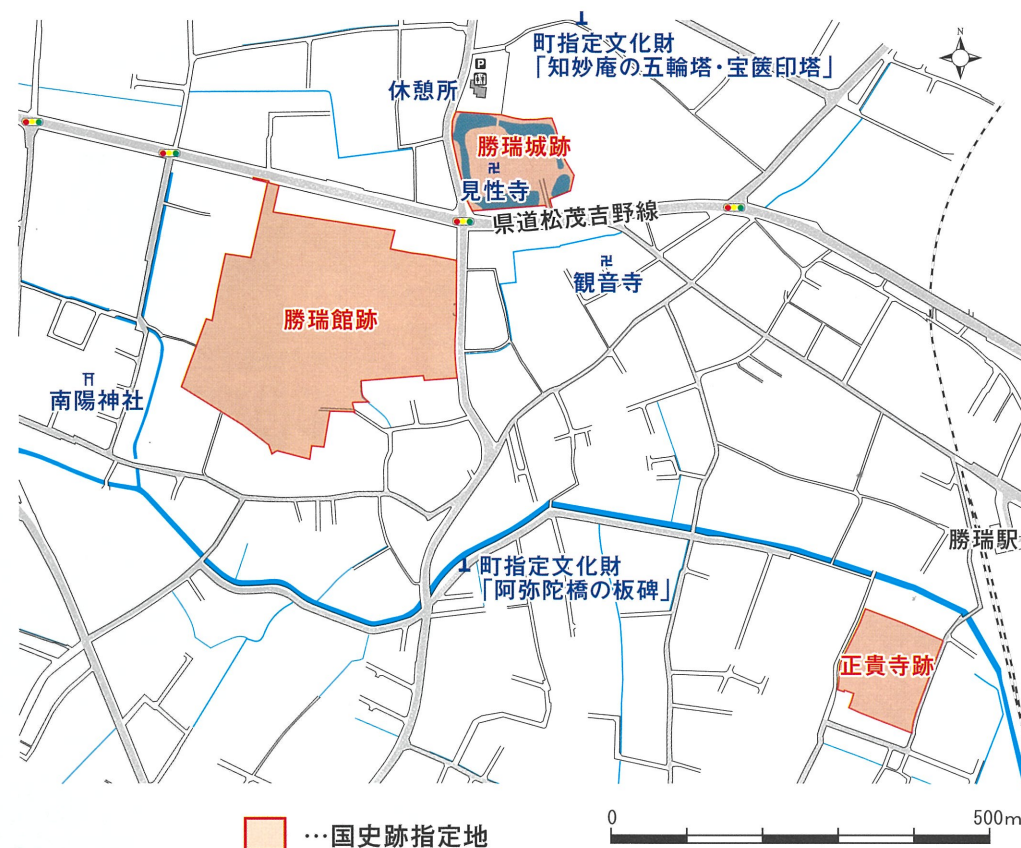


勝瑞城館跡

上から見た国史跡「勝瑞城館跡」

勝瑞城館跡は、阿波三好家の居館跡と推定される遺跡で、勝瑞城跡公園整備事業を契機として平成6年度から発掘調査が始まりました。調査が進むにつれ、多くの発見がありました。出土する遺物や検出される遺構の内容や規模、保存状態は全国的に見ても一級品であり、私たちににとって貴重な歴史文化遺産であるため、平成13年1月29日に国史跡に指定されることとなりました。その後の調査でも貴重な発見が相次ぎ、三好氏の祈願寺である「正貴寺跡」なども追加指定を受けました。

指定地の大部分は公有化し、発掘調査成果をもとに整備を進めており、歴史学習の場として、また住民の憩いの場としての活用を目指しています。
〔国史跡指定年月日〕平成13年1月29日
〔追加指定年月日〕平成19年2月9日、平成26年10月6日、平成27年10月7日、平成29年10月13日
〔指定面積〕58,799.400㎡
(勝瑞城跡8,866.80㎡、勝瑞館跡42,092.17㎡、正貴寺跡7,840.43㎡)



…国史跡指定地

0 500m

勝瑞城館跡のみどころ

勝瑞城館は、天正10年の頃には大規模な濠に囲まれた複数の区画が想定され、これらによって構成される大規模な城館であったと考えられています。しかし、当初からこのような姿であったわけではなく、当時の社会情勢の移り変わりを受けて、徐々にその姿も変化していったのです。

まず、築かれたのが区画Ⅰの部分です。築かれた時期は分かりませんが、16世紀前葉にこの区画は勝瑞城館の中核部として機能します。ここでは、大規模な池泉庭園と複数の建物跡が見つかっています。この頃は周囲の堀も規模が小さいものでした。しかし、16世紀の中頃にはこの区画の機能は失われます。そして、この時期に大きな濠が掘られ、これらの濠に囲まれた複数の区画が成立します。区画ⅡやⅢは16世紀後半に築かれた区画です。この時には、大きな濠が掘られるものの、城の防御のための土塁が築かれることはなく、土は敷地の盛土に使われたものと思われます。このことから、濠は治水のためのものであろうと考えられています。

阿波の中世城館の特徴の一つに、防御機能があまり発達しないことが挙げられます。これは、細川氏や三好氏の強大な軍事力や政治力・経済力の影響で、阿波では大きな戦乱は天正期まで起こらなかったためであろうといわれています。細川氏や三好氏の本拠地勝瑞でも、こうした社会情勢のもと、城館の防御機能が発達することがなかったのでしょう。

しかし、天正期に入ると、長宗我部氏の阿波侵攻が始まるなど、織田信長を中心とする広範な地域を巻き込む大規模戦争が阿波に迫り、勝瑞においても防御機能を充実させる必要が現実問題として起こってきたのです。そのような中で築かれたのが「勝瑞城跡」で、そこには大きな濠とともに大きな土塁が築かれています。

このように、勝瑞城館跡は16世紀の前葉から後葉にかけての阿波の社会情勢の変化が大いに反映された遺跡なのです。



建物跡と枯山水庭園



枯山水庭園

区画Ⅲ



人形手の青磁碗



梅瓶



交趾三彩水滴



区画Ⅲで見つかった建物の礎石

勝瑞城跡



「勝瑞義冢碑(しょうずいぎちやうひ)」阿波三好氏の盛衰が漢文で書き連ねられています。(藍住町指定有形文化財)



城内の東屋の屋根には、出土した瓦のレプリカが葺かれています。



勝瑞城跡の濠



勝瑞城跡の土塁



三好氏四代の墓(左から長治、三好氏四代、三好氏四代、三好氏四代)(藍住町指定有形文化財)



勝瑞館跡の濠



濠は幅10m以上、深さは3～3.5mを測る



濠の中から見つかった永禄7年(1564)の紀年銘の入った卒塔婆

区画Ⅰ



池泉庭園・池の東岸



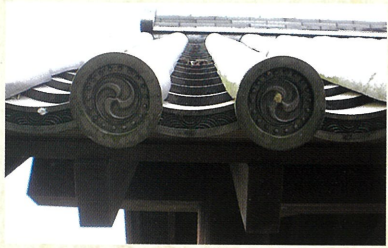
池泉庭園・池の全景



池の北側



「ようひ」
の



城内の東屋の屋根には、出土した
瓦のレプリカが葺かれています。



勝瑞城跡の濠



勝瑞城跡の土塁



三好氏四代の墓
左から長治、実休、元長、之長
(藍住町指定有形文化財)



濠の中から見つかった永禄7年
(1564)の紀年銘の入った卒塔婆



池泉庭園・池の東岸



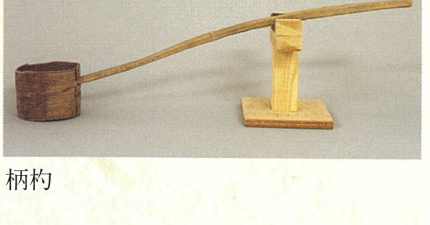
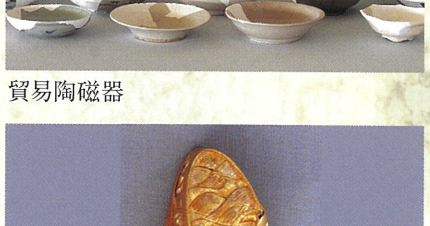
池泉庭園・池の全景



池の北側で見つかった建物の礎石



出土品



正貴寺跡

勝瑞の城下にはたくさんのお寺があったようです。そのうちの一つ、三好氏の祈願寺である正貴寺跡は国史跡に指定されています。

JR勝瑞駅のすぐ西側で、寺の名前が「正喜地」という小字名に残っており、古くから正貴寺跡であるとの伝承があった土地で、周辺には五輪塔が散在しています。

発掘調査によって大量の瓦が出土し、礎石建物跡も見つかっています。

『阿州三好記大状前書』(『阿波国徴古雑抄』)
一 正貴寺御祈願所貳貫文、則同所(勝瑞村)ニ寺地アリ、但下寺十五ヶ寺あり

『阿州三好記並寺立屋敷割次第』(『阿波国徴古雑抄』)
一 五間半ニ拾壹間客殿、四間ニ八間庫裏、并三間ニ四間取次、貳間ニ三間玄関、唐破風作、貳間四方鐘撞堂
一 三間四方護摩堂、本尊不動、三間ニ五間土蔵、三間ニ九間之下坊主部屋、三間ニ八間奥坐敷、三間ニ五間仁王門、三間ニ四間表門、二間半ニ三間裏門、貳間ニ三間寶蔵、寺立ハ南向也、本尊阿彌陀釋迦御作也、并大師御錫杖花さし貳ツ、但志やくどう、三好殿御上被為成候、御紋付幕貳張、大師御自筆御影一幅、屋敷壹丁七反餘、四方ニ藪アリ



出土した軒平瓦



発掘作業風景



検出された建物跡



発掘作業風景



近くに集められた一石五輪塔



検出された建物跡



検出された建物の礎石



鬼瓦